

和歌山県子供の生活実態調査
結果報告書
概要版

平成31年3月
和歌山県

目次

I. 実態調査の概要	1
(1) 実態調査の目的	1
(2) 実態調査の対象	1
(3) 調査票の作成、配付・回収	1
(4) 回収結果	2
II. 経済状況に基づく世帯区分について	3
(1) 所得に基づく分類	3
(2) 家庭の経済的困難の状況に注目した分析	5
(3) 回答者の世帯属性	7
(4) 地域別の状況	8
III. 調査結果分析	9
(1) 子供の教育環境	9
(2) 子供の社会性	15
(3) 子供の生活習慣	19
(4) 保護者の状況	22
IV. まとめ	25
(1) 子供の教育環境	25
(2) 子供の社会性	26
(3) 子供の生活習慣	27
(4) 保護者の状況	27
(5) 今後の取組	28

調査結果の詳細（報告書）は、和歌山県子ども未来課ホームページ（下記アドレス）に掲載しています。

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040200/kodomoseikatsu/html>

I. 実態調査の概要

(1) 実態調査の目的

子供の貧困対策を総合的に推進することを目的に、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が、平成26年1月に施行されました。

和歌山県においても、同法の趣旨に鑑み、和歌山県子供の貧困対策推進計画（以下「県計画」という。）を平成29年3月に策定しました。県計画では、内閣府子供の貧困対策に関する大綱で支援の緊急度が高いとされた、生活保護世帯の子供、ひとり親世帯の子供、児童養護施設等に入所している子供を中心に現状と課題を整理し、関連する施策を貧困対策事業として整理しました。

県計画での現状と課題を踏まえたうえで、子供の生活状況、学習状況、支援制度の利用状況やニーズを把握するとともに県計画に基づき取り組む各施策や支援制度の検証を行い、子供の貧困対策をより効果的に推進していくことを目的として、平成30年度に和歌山県子供の生活実態調査（以下「実態調査」という。）を実施しました。

(2) 実態調査の対象

実態調査は、子供と保護者に加え、子供の支援に関わる機関の従事者に対しても調査を実施しました。

①子供・保護者に対する調査：全数調査

県内の公立小学校（義務教育学校含む）、特別支援学校、私立小学校（各種学校含む）に在籍する小学5年生と、同中学校2年生の子供及びその保護者（県外から通学している子供は対象外。）

②支援機関に対する調査：原則各支援施設、支援団体の代表者1名が回答

実態調査の対象とした学校における小学5年生と中学2年生の担任教諭及び養護教諭、県内の幼稚園・保育所・認定こども園、市町村の子供の貧困対策担当部局、放課後児童クラブ、児童館・隣保館、社会福祉協議会、子育て地域包括支援センター等の子育て支援機関、児童養護施設等、主任児童委員、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、子供食堂や子供支援に関わるNPO等の担当者

(3) 調査票の作成、配付・回収

(3)-1 調査票の作成

調査票の作成にあたっては、先行して調査を行った他府県の調査票をベースにした上で、県庁内関係課室（9部局23課室）、県内市町村との検討を重ねて、調査票の素案を作成しました。そのうえで、子供の貧困対策に詳しい外部有識者の意見を踏まえて調査票（報告書参照）を確定しました。

I 実態調査の概要

(3)-2 調査票の配付・回収

- ・ 子供票、保護者票（調査期間：平成 30 年 7 月 5 日～7 月 30 日）
学校を通じて調査票を配付し、各家庭で子供と保護者が回答後、郵送で調査票を回収
- ・ 支援者票（調査期間：平成 30 年 7 月 12 日～8 月 3 日）
郵送により配付、回収

(3)-3 実態調査の実施体制

調査票の作成、配付・回収方法の選定、結果分析、その他本調査の実施に関する決定において、県庁内関係課室（9 部局 2 3 課室）及び県内市町村の意見を集約し、外部の有識者の意見を反映しています。

また、本県の分析結果は、県内各市町村の施策検討の素材として県内 30 市町村に提供します。

有識者一覧

（五十音順 敬称略）

分野	氏名	所属等
教育関係者	亀位 直規	和歌山県連合小学校長会長 和歌山市立今福小学校長
学識経験者	越野 章史	和歌山大学教育学部准教授 和歌山県子供の貧困対策に関する有識者会議有識者
調査分析専門	谷道 正太郎	総務省統計局・独立行政法人統計センター 統計データ利活用センター長
福祉関係者	森下 宣明	和歌山乳児院施設長、全国乳児福祉協議会副会長 厚生労働省社会保障審議会(児童部会)社会的養護専門委員会委員 和歌山県子供の貧困対策に関する有識者会議有識者

(4) 回収結果

■子供の生活実態調査回収結果

※子供と保護者で有効回収数が異なるのは、一部に子供のみ、あるいは保護者のみの回収があったため

	対象	配付数	有効回収数	有効回収率
小学5年生調査	児童	7,705	3,768	48.9%
	保護者		3,772	49.0%
中学2年生調査	生徒	7,847	3,215	41.0%
	保護者		3,224	41.1%
合計	子供	15,552	6,983	44.9%
	保護者		6,996	45.0%

■支援機関調査回収結果

	配付数	有効回収数	有効回収率
支援機関調査	2,522	1,782	70.7%

Ⅱ. 経済状況に基づく世帯区分について

回答者を世帯の経済状況に基づいて次のように区分し、それぞれの回答結果を示すことで、世帯の経済状況別に見た回答状況を把握することを基本とします。

(1) 所得に基づく分類

(1) - 1 子供の貧困率とは

内閣府の大綱では子供の貧困を示す指標の1つとして、国民生活基礎調査における「相対的貧困率」(等価可処分所得*1が貧困線*3に満たない世帯に属する人の割合)を採用しています。子供の貧困率とは、子供全体に占める等価可処分所得が貧困線に満たない子供の割合をいいます。

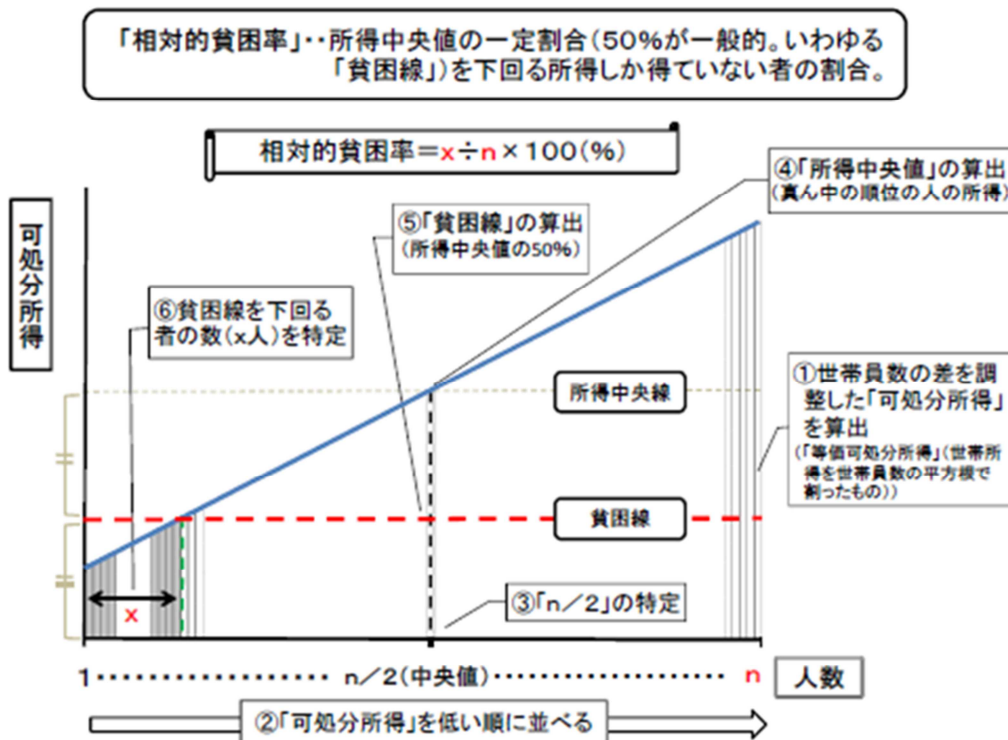
*1 等価可処分所得：世帯人数を考慮した可処分所得*2(=手取り収入/√世帯人員)。

*2 可処分所得：収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入。

*3 貧困線：等価可処分所得の中央値(データを小さい順に並べたとき中央に位置する値)の半分の額。

$$\text{子供の貧困率 (\%)} = \frac{\text{貧困線を下回る所得の17歳以下の世帯人員数}}{\text{17歳以下の全ての世帯人員数}} \times 100$$

参考図：国民生活基礎調査(貧困率)(厚生労働省ホームページより引用)

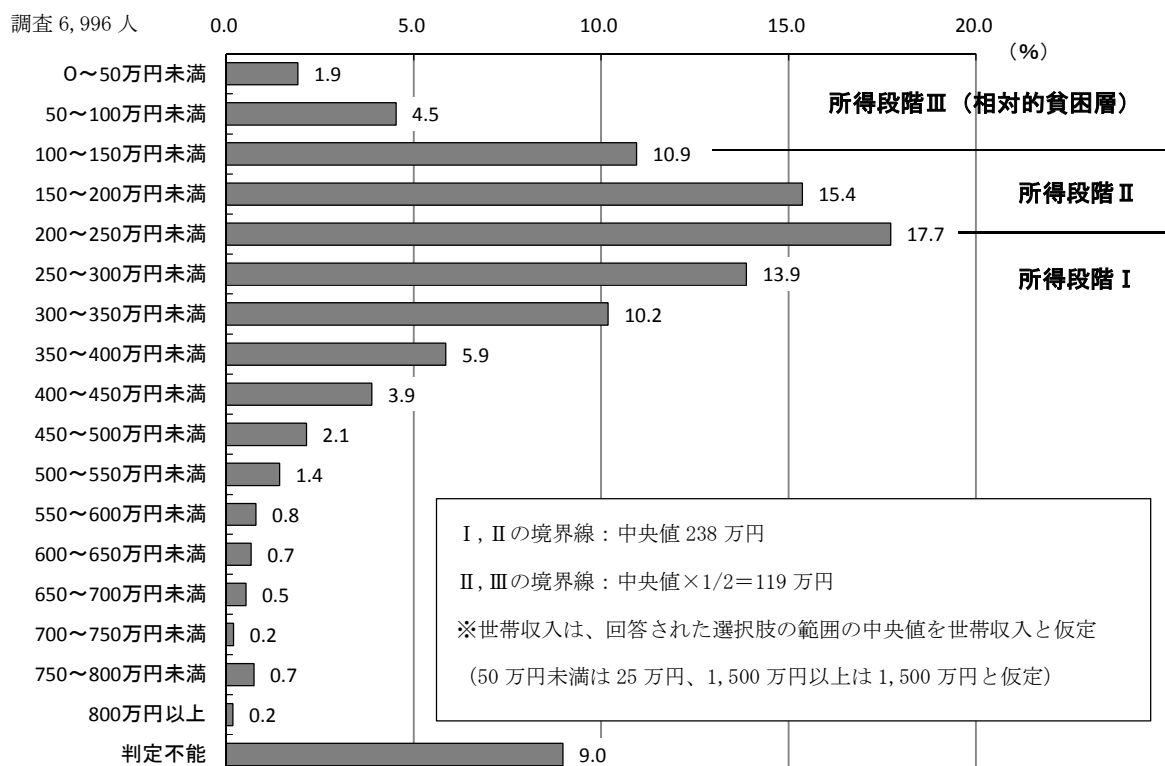


II 経済状況に基づく世帯区分

(1) - 2 和歌山県の子供の貧困率について

実態調査では、調査票各設問を分類する基本軸の設定、及び和歌山県の子供の貧困率を算出することを目的に、保護者調査で世帯収入（年間の手取り収入）と世帯人員を質問し、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で除した値）を算出しました。中央値と、中央値の2分の1（貧困線）を区分線として所得段階を分類し分析を行いました。

■本調査における等価可処分所得の分布



■所得段階別の分布

※割合は小数第二位を四捨五入

	所得の範囲	件数	%
所得段階Ⅰ (中央値以上)	238 万以上	3,264	51.3
所得段階Ⅱ (中央値の2分の1以上)	119~238 万未満	2,367	37.2
所得段階Ⅲ (中央値の2分の1未満)	119 万未満	736	11.6
合計	—	6,367	(100.0)

県内の小学5年生と中学2年生の所得段階Ⅲの子供数／県内の小学5年生と中学2年生の子供数

参考：平成28年の国民生活基礎調査における貧困線は122万円、子供の貧困率は13.9%（全国値）

※国民生活基礎調査と実態調査とは調査対象者や調査方法が異なるため、子供の貧困率の単純比較はできません。

(2) 家庭の経済的困難の状況に注目した分析

前述(1)等価可処分所得による所得段階と世帯の生活水準は概ね相関があると予測できますが、世帯内の子供の生活水準は必ずしも世帯の生活水準と一致しません。例えば世帯全体の生活水準が低くても親が子供の生活水準を維持しようと努めた場合、世帯の生活水準に比べて子供の生活水準は低くないことが予想できます。このように所得の多寡だけでは生活困窮の度合いを区分できているとは言えないため、より生活状況に密接した分析の基本となる軸を設定することとしました。

(2) -1 経済的困難の判断のための質問

①生活必需品の購入困難(保護者票問 28・29)

経済的な理由で、生活に必要な食料または衣類を購入できなかった経験が、「よくあった」「ときどきあった」世帯を生活必需品の「購入困難経験あり」とします。

②料金等の支払い困難(保護者票問 30)

一般的な生活を送る上で支払う必要がある料金等について、以下8項目のいずれか1つ以上を経済的な理由で支払えないことがあった世帯を、「料金等の支払い困難経験あり」とします。

1 電気料金 <small>でんきりょうきん</small>	4 電話料金 <small>でんわりょうきん</small>	7 公的年金, 健康保険料 <small>こうてきねんきん けんこうほけんりょう</small>
2 ガス料金 <small>がすりょうきん</small>	5 家賃 <small>やちん</small>	8 子供の学校で必要なお金 <small>こども がっこう ひつよう かね</small>
3 水道料金 <small>すいどうりょうきん</small>	6 税金 <small>ぜいきん</small>	9 あてはまるものはない

③生活必需品の非所有(保護者票問 31)

以下1~13までの13項目について、いずれか1つ以上がないと回答したものを「生活必需品の非所有」とします(パソコンと新聞の定期購読は生活困窮と必ずしも関連しないため除外)。

1 子供の年齢に合った本 <small>こども ねんれい あい ほん</small>	9 電子レンジ <small>でんし</small>
2 子供用のスポーツ用品・おもちゃ <small>こどもよう スポーツ用品 おもちゃ</small>	10 電話(固定電話・携帯電話のどちらか) <small>でんわ こていでんわ けいたいでんわ</small>
3 子供が自宅で宿題をすることができる場所 <small>こども じたく しゅくだい ぼしよ</small>	11 世帯専用のおふろ <small>せたいせんよう</small>
4 洗濯機 <small>せんたくき</small>	12 世帯人数分のベッドまたは布団 <small>せたいにんずうぶん ふとん</small>
5 炊飯器 <small>すいはんき</small>	13 急な出費のための貯金(5万円以上) <small>きゅう しゅつび ちよきん まんえんいじょう</small>
6 掃除機 <small>そうじき</small>	14 パソコン(タブレット含む) <small>ぷく</small>
7 暖房機器(エアコンを含む) <small>だんぼうき き</small>	15 新聞の定期購読(インターネット含む) <small>しんぶん ていきこうどく ぷく</small>
8 冷房機器(エアコンを含む) <small>れいぼうき き</small>	16 あてはまるものはない

II 経済状況に基づく世帯区分

(2) - 2 経済的困難世帯

上記(2) - 1の3つのいずれか1つ以上が「あり」に該当する回答を経済的困難世帯と定義します。経済的困難世帯の状況は、以下のとおりです。

■経済的困難世帯

	件数	%	%(除判定不能)
経済的困難世帯	1,168	16.7	17.4
非困難世帯	5,548	79.3	82.6
判定不能	280	4.0	-

※判定不能：いずれかの指標に関連する質問に無回答があり、「非困難世帯」と判断できないもの

所得段階と経済的困難世帯との関係は、下表のとおりです。最も経済的困難世帯の割合が高いのは所得段階Ⅲですが、所得段階Ⅰ及びⅡに経済的困難世帯が一定数含まれており、所得段階と経済的困難世帯とは必ずしも一致していません。

■所得段階別に見た経済的困難世帯の割合

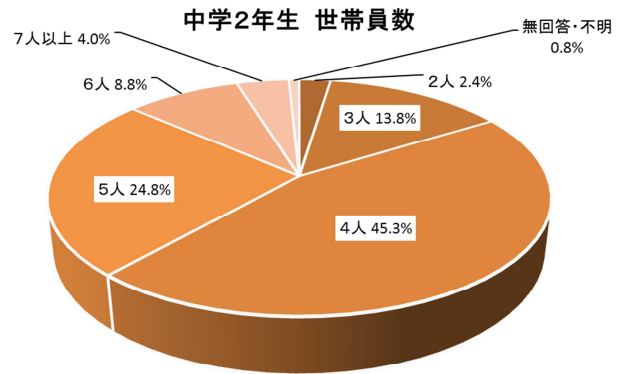
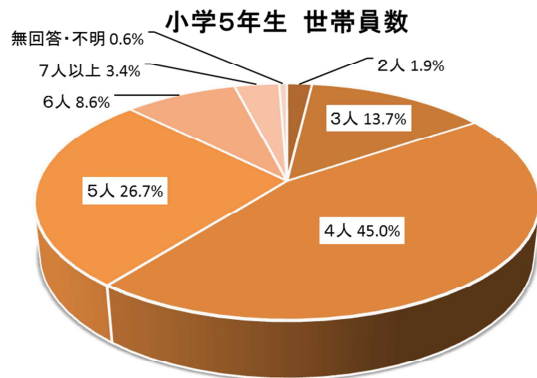
	経済的困難世帯		非困難世帯		経済的困難判定不能	
	件数	%	件数	%	件数	%
所得段階Ⅰ	186	5.7	2,970	91.0	108	3.3
所得段階Ⅱ	531	22.4	1,785	75.4	51	2.2
所得段階Ⅲ	373	50.7	346	47.0	17	2.3
所得段階判定不能	78	12.4	447	71.1	104	16.5
合計	1,168	16.7	5,548	79.3	280	4.0
		17.4		82.6		-

※判定不能：いずれかの指標に関連する質問に無回答があり、「非困難世帯」と判断できないもの

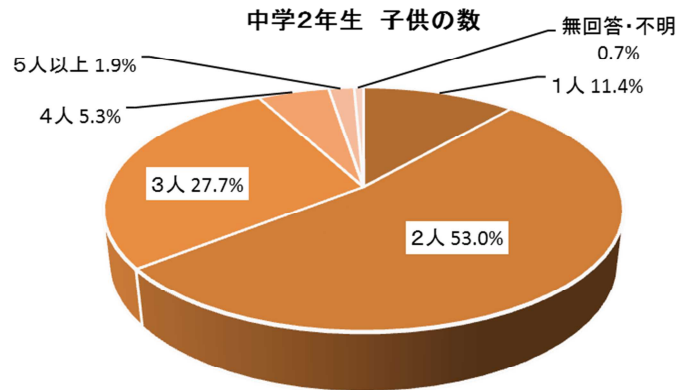
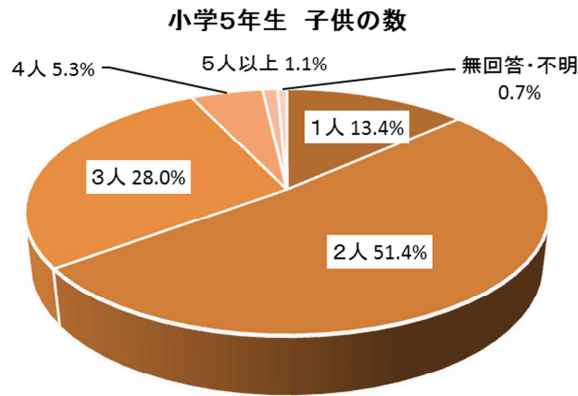
(参考) $17.4\% = 1,168 / (1,168 + 5,548) \times 100$

(3) 回答者の世帯属性

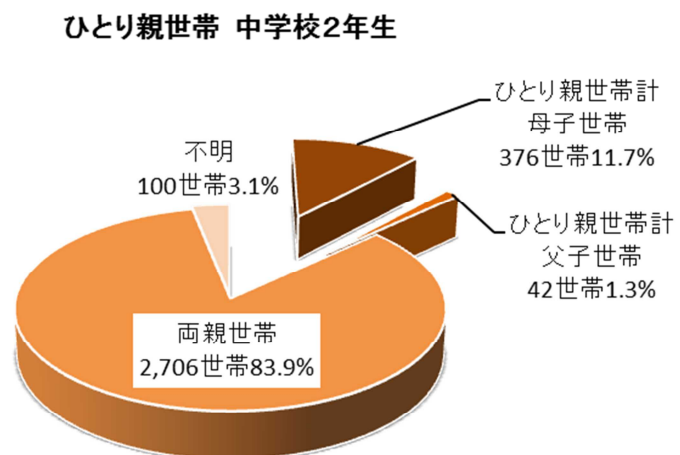
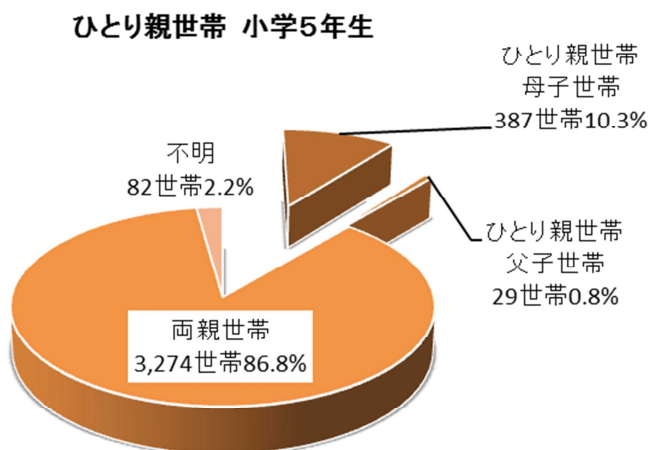
○世帯員の数（家族構成）（保護者票問 5）



○世帯員のうち子供の数（保護者票問 6）



○ひとり親世帯の割合（保護者票問 4, 7）



II 経済状況に基づく世帯区分

○ひとり親世帯の構成(保護者票問4,問7)

ひとり親世帯のうち、母子世帯では約4割が所得段階Ⅲとなっており、所得の水準が特に低くなっています。

■ひとり親世帯の所得段階と経済的困難(小学5年生)

	全体	所得段階Ⅰ		所得段階Ⅱ		所得段階Ⅲ		経済的困難世帯	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
ひとり親世帯計	416	58	13.9	158	38.0	154	37.0	129	31.0
母子世帯	387	47	12.1	146	37.7	151	39.0	122	31.5
父子世帯	29	11	37.9	12	41.4	3	10.3	7	24.1
両親世帯	3,274	1,653	50.5	1,143	34.9	223	6.8	462	14.1
合計	3,772	1,724	45.7	1,326	35.2	392	10.4	616	16.3

■ひとり親世帯の所得段階と経済的困難(中学2年生)

	全体	所得段階Ⅰ		所得段階Ⅱ		所得段階Ⅲ		経済的困難世帯	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
ひとり親世帯計	418	74	17.7	160	38.3	159	38.0	143	34.2
母子世帯	376	56	14.9	141	37.5	155	41.2	134	35.6
父子世帯	42	18	42.9	19	45.2	4	9.5	9	21.4
両親世帯	2,706	1,444	53.4	854	31.6	172	6.4	386	14.3
合計	3,224	1,540	47.8	1,041	32.3	344	10.7	552	17.1

※所得段階Ⅰ～Ⅲのいずれかと経済的困難世帯の両方にカウントされている世帯があることや、全体の件数には無回答があるために世帯区分ができなかった世帯を含んでいるため、各世帯区分の合計は全体の件数と一致しません。

(4) 地域別の状況

回答者の居住自治体を、紀北、紀中、紀南と和歌山市に分類し、所得段階と経済的困難の状況をみると、全体的な所得水準に北高南低の傾向があります。

■地域別に見た所得段階と経済的困難

※全体のみ世帯数、所得段階別の単位は%

小学5年生	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難世帯
和歌山市	1,268	54.3	29.7	7.9	14.8
紀北	1,187	44.2	37.7	8.8	16.2
紀中	604	40.9	37.3	12.9	15.4
紀南	678	37.0	38.6	15.5	19.9
合計	3,772	45.7	35.2	10.4	16.3

中学2年生	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難世帯
和歌山市	1,023	56.0	27.6	7.4	15.1
紀北	1,002	47.6	32.9	9.8	17.0
紀中	605	41.8	35.5	14.0	17.2
紀南	559	38.8	36.3	14.8	21.6
合計	3,224	47.8	32.3	10.7	17.1

※紀北：海南市、橋本市、紀の川市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町、九度山町、高野町

紀中：有田市、御坊市、湯浅町、広川町、有田川町、美浜町、日高町、印南町、みなべ町、日高川町

紀南：田辺市、新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町

※所得段階Ⅰ～Ⅲのいずれかと経済的困難世帯の両方にカウントされている世帯があることや、全体の件数には無回答があるために世帯区分ができなかった世帯を含んでいるため、各世帯区分の合計は全体の件数と一致しません。

Ⅲ. 調査結果分析

実態調査の結果全体を通じて、所得段階区分Ⅰ～Ⅲによる分類に加え、経済的困難世帯を設定し（前述Ⅱ参照）、調査結果を示しています。また、小学5年生と中学2年生では回答の状況が異なることから、保護者調査、子供調査ともに学年別に調査結果を掲載しています。

なお、以降の分析の中で、所得段階Ⅱ、Ⅲの比較において所得段階Ⅰとの比較ほどの差が見られないのは、所得段階ⅡとⅢの可処分所得の金額差がⅠと、ⅡあるいはⅢの金額差ほどにないことも関連していると考えられ、前提としてこのことに留意する必要があります。

（１）子供の教育環境

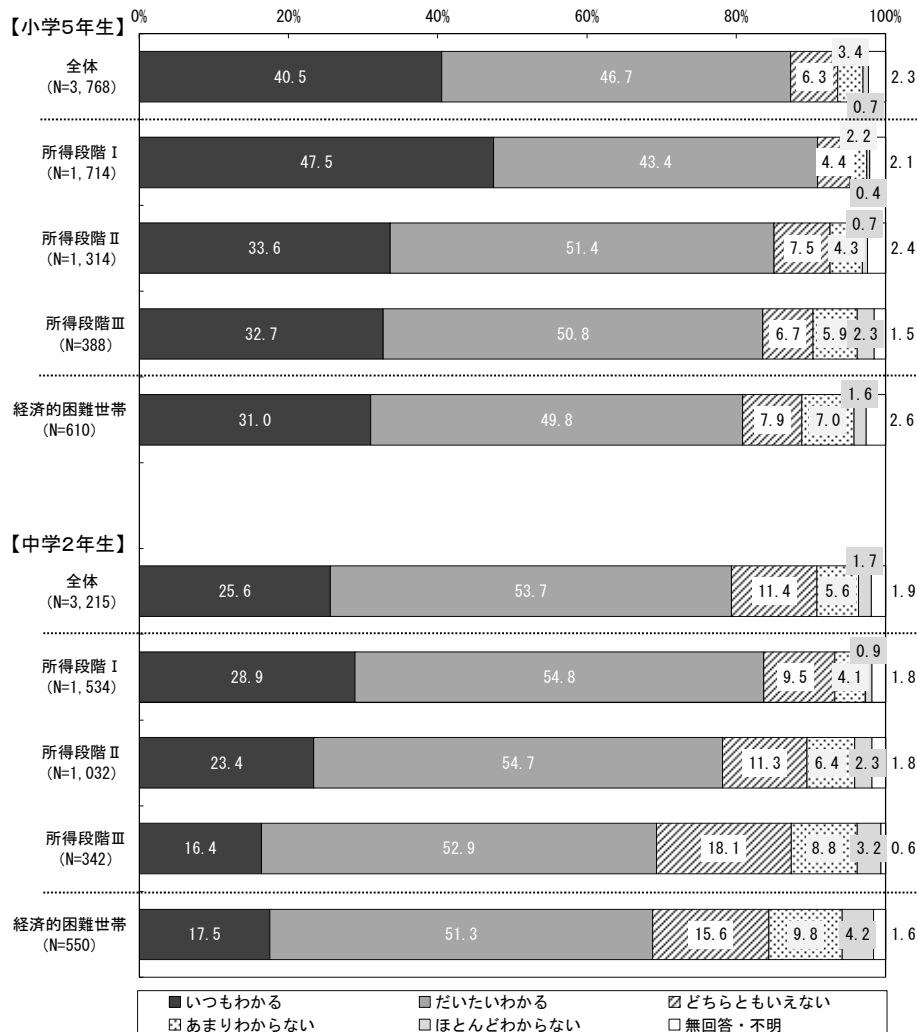
以下 ○子供調査、保護者調査 ●支援者調査

学力は、将来の所得を決める大きな要素であり、教育環境を整えることにより、学力を高めることが重要である。

○経済的に厳しい世帯ほど、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が低い。

【学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合】（子 29, 28*）

※調査票の種類と問番号を略記。子供票（小学生票問 29、中学生票問 28 で同一の問題）を「子 29,28」、保護者票を「保」、支援者票を「支」



【学校の授業以外の学習と学校の授業がわかること】

○塾や習いごとをしている子供は、学校の授業がわかる割合が高い。

通塾有無別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	通塾の有無	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	あり	51.8%	57.2%	43.2%	43.1%	41.7%
	なし	33.2%	38.2%	29.0%	29.3%	28.2%
中学2年生	あり	28.0%	30.2%	25.9%	22.7%	23.2%
	なし	22.0%	26.5%	19.7%	11.3%	12.1%

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、塾や習いごとをしている割合が低い。

塾に通っていないと回答した子供の割合(子 32.31)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	55.8%	48.0%	62.5%	67.8%	68.0%
中学2年生	36.5%	31.5%	39.0%	49.1%	48.0%

経済的な理由で、子供の塾や習いごとをさせられなかったと回答した保護者の割合(保 24.25)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	25.4%	13.2%	35.3%	49.7%	62.7%
中学2年生	23.1%	12.6%	31.8%	49.4%	61.4%

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、宿題の履行率が低い。

学校の宿題をしていると回答した子供の割合(子 34.33)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	89.9%	91.5%	89.3%	85.1%	85.1%
中学2年生	73.8%	75.4%	73.9%	67.8%	66.9%

平日学校の授業以外の勉強時間が30分未満であると回答した子供の割合(子 31.30)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	15.6%	11.8%	18.5%	19.6%	23.3%
中学2年生	17.7%	13.6%	20.7%	25.2%	28.5%

【進学希望と学校の授業がわかること】

○高等教育段階への進学を希望している子供の方が、中等教育段階への進学を希望している子供より学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。

※高等教育：短大・高専・大学・大学院
中等教育：中学・高校・高校卒業後の専門学校

進学希望別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	進学希望	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高等教育	55.1%	59.7%	47.0%	45.3%	47.9%
	中等教育	29.8%	34.6%	25.4%	28.3%	27.1%
中学2年生	高等教育	36.1%	36.7%	35.0%	28.2%	31.5%
	中等教育	15.9%	19.0%	13.1%	15.2%	13.3%

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、世帯の経済状況により進学をあきらめたり、進学のイメージを持つことができていない。

将来、大学(またはそれ以上)まで進学したいと回答した子供の割合(子 37.36)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	33.0%	42.3%	26.3%	19.6%	19.7%
中学2年生	42.2%	53.5%	34.5%	20.5%	26.4%

将来、自分の子供に大学(またはそれ以上)まで進学させたいと回答した保護者の割合(保 12)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	51.0%	66.9%	40.3%	26.3%	30.0%
中学2年生	51.0%	67.0%	39.2%	23.3%	29.3%

「保護者が子供に望む進学希望の理由」で「家庭の状況から考えて」と回答した保護者の割合(保 12-1)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	4.5%	1.7%	6.4%	11.2%	13.5%
中学2年生	5.3%	1.9%	6.4%	18.6%	17.2%

【保護者の教育姿勢と学校の授業がわかること】

○経済的に厳しい世帯ほど、保護者の教育姿勢が低い。

子供に対する教育姿勢の高低別にみた保護者の割合

	教育姿勢	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	34.8%	41.1%	29.7%	27.8%	26.6%
	低	24.8%	20.5%	28.5%	35.8%	35.1%
中学2年生	高	24.7%	29.3%	21.7%	17.5%	17.1%
	低	36.0%	31.1%	39.8%	48.8%	45.8%

教育姿勢得点

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問:【保護者調査】あなたのご家庭では、お子さんに対して、次のことをしていますか。 ①お子さんの良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている ②お子さんが悪いことをしたらきちんとしめている ③お子さんに本や新聞を読むようにすすめている ④お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている ⑤お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした ⑥お子さんに「勉強しなさい」とよく言っている ⑦やるべき事ができるまで何度も細かく指示する ⑧お子さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している ⑨お子さんの心配事や悩みごとの相談によく乗っている	①～⑨のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。 あてはまる:3点 どちらかといえばあてはまる:2点 どちらかといえばあてはまらない:1点 あてはまらない:0点 ①～⑨の点数を合算した合計得点が20点以上を教育姿勢高、16～19点を中、15点以下を低とします。

○保護者の教育姿勢が高いほど、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高い。

小学5年生では教育姿勢による差が大きく、例えば経済的困難世帯の教育姿勢高と、全体の教育姿勢低を比較した場合、前者の方が学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。中学校2年生でも、概ね同様の傾向にあるが小学5年生ほど差が大きくはない。

保護者の教育姿勢と学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	教育姿勢	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	48.6%	54.6%	39.0%	40.7%	38.9%
	低	32.3%	37.9%	28.8%	26.6%	28.0%
中学2年生	高	30.4%	32.0%	29.9%	21.7%	25.5%
	低	21.5%	26.0%	18.5%	13.2%	13.5%

Ⅲ 調査結果分析

➤教育姿勢得点①～⑨のうちどの項目が、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合に影響を与えているかを把握するため、「当該項目にあてはまる場合」と「あてはまらない場合」における「学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差が大きい項目を確認することとした。

教育姿勢得点の項目別の「授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差（％）		差の大きい順に3項目を掲載	
小学5年生		中学2年生	
全体		全体	
②お父さんが悪いことをしたらきちんとしかっている	20.8	①お父さんの良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている	9.3
③お父さんに本や新聞を読むようにすすめている	12.3	④お父さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている	7.9
⑧お父さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している	10.3	⑧お父さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している	7.8
うち経済的困難世帯		うち経済的困難世帯	
②お父さんが悪いことをしたらきちんとしかっている	16.9	③お父さんに本や新聞を読むようにすすめている	8.4
⑧お父さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している	8.5	④お父さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている	7.5
③お父さんに本や新聞を読むようにすすめている	8.2	⑧お父さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している	6.2

【生活習慣と学校の授業がわかること】

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、生活習慣が備わっていない割合が高い。

生活習慣の高低別にみた子供の割合

	生活習慣	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	63.4%	67.8%	61.6%	49.0%	47.4%
	低	12.5%	9.2%	14.0%	21.9%	22.8%
中学2年生	高	61.7%	63.4%	60.9%	52.0%	51.3%
	低	14.3%	12.9%	14.5%	21.9%	22.9%

生活習慣得点

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
①質問：あなたは、学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	・①と②については、「決まっていない」を0点、それ以外の回答を1点とする。 ・③-A(歯磨き)については、「毎日2回以上する」を2点、「毎日1回する」を1点、「する日のほうが多い」「しない日の方がほうが多い」「ほとんどしない」を0点とする。 ・③-B(入浴)については、「毎日2回以上する」「毎日1回する」を2点、「する日のほうが多い」を1点、「しない日の方がほうが多い」「ほとんどしない」を0点とする。 ・④については、「いつも食べる」を2点、「食べるほうが多い」を1点、「食べないほうが多い」「いつも食べない」を0点とする。 ①～④の点数を合算した合計得点が8点を生活習慣高、7点在中、6点以下を低とします。
②質問：あなたは、次の日に学校がある日は、だいたい何時ごろに寝ますか。	
③質問：あなたは、歯磨きや入浴(風呂、シャワー)をしますか。【A歯磨き、B入浴】	
④質問：あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	

○生活習慣得点が高い子供の場合、学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。

生活習慣別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	生活習慣	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	46.4%	51.5%	40.9%	37.9%	35.3%
	低	27.9%	34.4%	20.1%	29.4%	26.6%
中学2年生	高	30.4%	34.0%	27.8%	19.1%	22.0%
	低	12.6%	15.2%	10.7%	9.3%	8.7%

➤生活習慣得点①～④の各項目と学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合との相関を分析するために、各項目別に「学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差を確認した。

生活習慣得点の項目別の「授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差（％）			
小学5年生		中学2年生	
全体		全体	
③Aあなたは歯磨きをしますか。	18.8	③Aあなたは歯磨きをしますか。	22.3
④あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	18.0	④あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	13.9
①あなたは学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	5.4	①あなたは学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	12.9
③Bあなたは、入浴(風呂、シャワー)をしますか。	1.7	③Bあなたは、入浴(風呂、シャワー)をしますか。	12.3
②あなたは次の日に学校がある日はだいたい何時ごろに寝ますか。	-0.4	②あなたは次の日に学校がある日はだいたい何時ごろに寝ますか。	9.8
うち経済的困難世帯		うち経済的困難世帯	
③Bあなたは、入浴(風呂、シャワー)をしますか。	15.4	③Aあなたは歯磨きをしますか。	20.5
③Aあなたは歯磨きをしますか。	13.0	③Bあなたは、入浴(風呂、シャワー)をしますか。	14.8
④あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	8.9	②あなたは次の日に学校がある日はだいたい何時ごろに寝ますか。	10.4
②あなたは次の日に学校がある日はだいたい何時ごろに寝ますか。	0.8	①あなたは学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	9.8
①あなたは学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	-1.5	④あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	9.3

- ①起床時刻：「6時30分から7時に起床」と回答した子供と「決まっていない」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
- ②就寝時刻：
 - 小学5年生：「10時より前に就寝」と回答した子供と「決まっていない」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
 - 中学2年生：「10時台に就寝」と回答した子供と「決まっていない」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
- ③A 歯磨き：「毎日2回以上する」と回答した子供と「毎日1回未満」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
- ③B 入浴：「毎日1回する」と回答した子供と「毎日1回未満」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
- ④朝食：「いつも食べる」と回答した子供と「いつも食べる」以外の選択肢を回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差

【文化的な活動と学校の授業がわかること】

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、文化的な活動や体験の機会が少ない。

文化的な活動の高低別にみた子供の割合

	文化的活動	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	36.4%	42.8%	34.7%	19.6%	24.8%
	低	30.5%	24.0%	33.3%	45.6%	43.4%
中学2年生	高	37.5%	43.2%	33.9%	25.1%	24.9%
	低	32.6%	28.0%	36.1%	43.0%	44.2%

文化的活動得点

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問：【子供調査】あなたの家では、下に書いてあるようなことをすること(したこと)がありますか。ふだんすること(したこと)があるものすべてに○をしてください。 ①小さいころに本や絵本を読んでもらう ②手作りのおやつをつくる ③図書館に行く ④動物園や水族館に行く ⑤博物館や美術館に行く ⑥音楽会やコンサートに行く ⑦映画や演劇を観に行く ⑧新聞やニュースについて話す ⑨パソコンやインターネットで調べものをする ⑩学校の行事に家族が来る ⑪地域の行事に参加する ⑫泊まりで家族旅行に行く ⑬祖父母や親せきの家に遊びに行く	①～⑬について、選択された数を得点とします。 11点以上を文化活動高、8～10点を中、7点以下を低とします。

Ⅲ 調査結果分析

○文化的な活動を多く経験している子供ほど、学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。

小学5年生では文化的活動の影響が大きく、所得が低くても文化的活動を行っている場合は学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高い。中学2年生では、同様の傾向が見られるものの所得段階Ⅲでは文化的な活動の高低で差のない結果となっている。

文化的な活動別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	文化的活動	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	51.1%	57.8%	40.8%	51.3%	40.4%
	低	33.5%	38.6%	29.1%	26.0%	29.8%
中学2年生	高	30.8%	32.2%	31.4%	16.3%	27.7%
	低	21.8%	26.0%	17.2%	17.0%	12.8%

➤文化的活動得点①～⑬のうちどの項目が、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合に影響を与えているかを把握するため、「当該項目にあてはまる場合」と「あてはまらない場合」における「学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差が大きい項目を確認することとした。

文化的活動得点の項目別の「授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差（％）		差の大きい順に3項目を掲載	
小学5年生	中学2年生		
全体	全体		
③図書館に行く	⑧新聞やニュースについて話す	13.3	8.5
⑤博物館や美術館に行く	⑫泊まりで家族旅行に行く	11.4	7.7
⑥音楽会やコンサートに行く	⑤博物館や美術館に行く	11.3	7.3
うち経済的困難世帯	うち経済的困難世帯		
⑦映画や演劇を観に行く	⑤博物館や美術館に行く	11.8	12.9
③図書館に行く	⑪地域の行事に参加する	8.6	12.2
⑨パソコンやインターネットで調べものをする	③図書館に行く	8.4	10.5

【自尊感情と学校の授業がわかること】

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、自尊感情が低い。

自尊感情の高低別にみた子供の割合

	自尊感情	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	46.1%	50.8%	42.4%	41.0%	40.2%
	低	16.5%	14.8%	17.8%	20.9%	20.5%
中学2年生	高	31.3%	33.5%	29.3%	26.3%	27.6%
	低	29.9%	27.2%	31.2%	36.0%	36.4%

自尊感情得点

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問：【子供調査】あなたの思いや気持ちについて、もっとも近いものに○をつけてください。 ①自分には、良いところがある ②将来の夢や目標をもっている ③がんばれば、いいことがある ④自分は家族に大事にされている ⑤自分の将来が楽しみだ ⑥自分のことが好きだ	①～⑥のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。 そう思う：3点 どちらかといえばそう思う：2点 どちらかといえばそう思わない：1点 そう思わない：0点 ①～⑥の点数を合算した合計得点が16点以上を自尊感情高、12～15点を中、11点以下を低とします。

○自尊感情が高い場合、いずれの世帯区分でも授業がいつもわかると回答した子供の割合が高い。

自尊感情別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

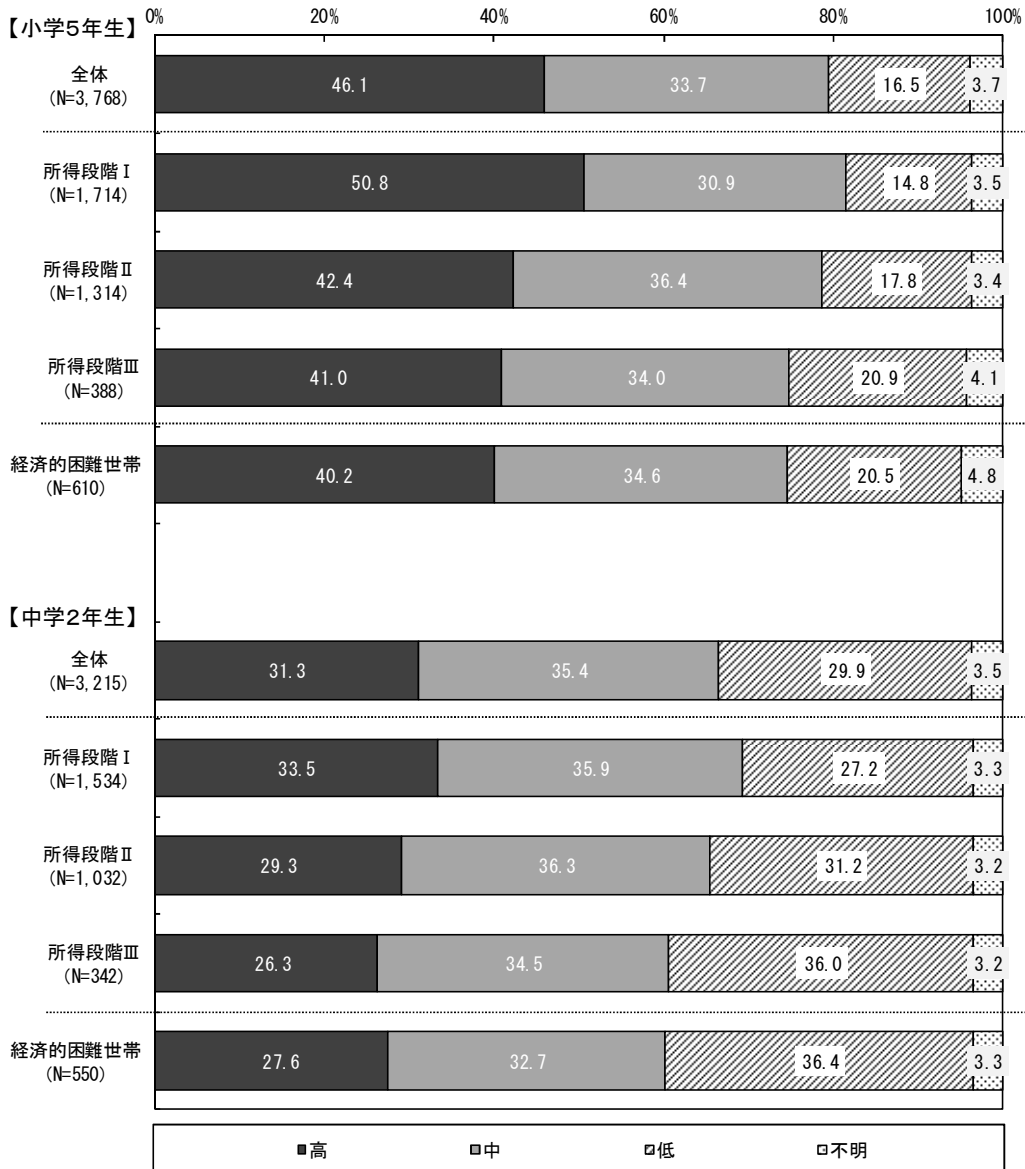
	自尊感情	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	50.3%	55.7%	43.6%	42.8%	38.8%
	低	25.6%	31.5%	20.1%	22.2%	22.4%
中学2年生	高	40.5%	43.6%	39.4%	26.7%	33.6%
	低	13.7%	15.8%	11.2%	13.0%	8.5%

(2) 子供の社会性

「自分には良いところがある」、「がんばればいいことがある」等の自尊感情は、前項において学力を高めるために良い影響を与えていることがわかった。また、自尊感情は意欲ややり抜く力等積極的に社会で生きる原動力であり重要であると考え、ここでは自尊感情について分析を深めた。

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、自尊感情が低い。

【自尊感情の高低別にみた子供の割合】



自尊感情得点(再掲)

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問:【子供調査】あなたの思いや気持ちについて、もっとも近いものに○をつけてください。 ①自分には、良いところがある ②将来の夢や目標をもっている ③がんばれば、いいことがある ④自分は家族に大事にされている ⑤自分の将来が楽しみだ ⑥自分のことが好きだ	①～⑥のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。 そう思う:3点 どちらかといえばそう思う:2点 どちらかといえばそう思わない:1点 そう思わない:0点 ①～⑥の点数を合算した合計得点が16点以上を自尊感情高、12～15点を中、11点以下を低とします。

【家族以外の大人とのつながり】

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、家族以外の大人と積極的に関わっている割合が低い。

大人との関わりの高低別にみた子供の割合

	大人との関わり	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	43.3%	44.9%	43.3%	40.2%	40.5%
	低	20.8%	20.0%	20.1%	27.8%	23.4%
中学2年生	高	48.2%	49.9%	47.9%	45.9%	44.0%
	低	14.0%	13.1%	13.2%	19.6%	17.3%

家族以外の大人とのつながりの得点

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問：【子供調査】あなたはふだん、困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、他の人にどれくらい話しますか。 ①学校の先生 ②子ども会、その他施設の先生 ③その他の大人(近所の大人や塾・習いごとの先生など)	①～③のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。 よく話す：1点 時々話す：1点 あまり話さない：0点 ぜんぜん話さない：0点
質問：【子供調査】勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか ④学校の先生 ⑤子ども会、その他施設の先生 ⑥塾や習いごとの先生 ⑦その他の大人	④～⑦について、選択された数を得点とします。 ①～⑦の点数を合算した合計得点が2点以上を高、1点を中、0点を低とします。

○家族以外の大人と積極的に関わっている子供ほど自尊心が高い。

所得段階においてあまり差は見られない。例えば、小学5年生では大人との関わり高の場合、所得段階Ⅲの方が所得段階Ⅱより自尊心得点高の割合が高くなっており、中学2年生では大人との関わり低の場合、所得段階Ⅱの方が所得段階Ⅰより自尊心得点高の割合が高くなっている。

家族以外の大人とのつながり別にみた自尊心が高い子供の割合

	大人との関わり	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	53.3%	58.5%	48.9%	50.0%	46.6%
	低	36.1%	37.3%	34.5%	32.4%	30.8%
中学2年生	高	38.2%	41.1%	36.0%	29.3%	33.9%
	低	17.7%	17.9%	19.9%	10.4%	11.6%

【文化的活動】

○文化的活動を多く経験している子供は自尊心が高い。

文化的活動が高い場合における自尊心が高い子供の割合は、所得段階において差が見られない。一方で、文化的活動が低い場合において、自尊心が高い割合は、所得段階Ⅲ及び経済的困難世帯において低くなっており、経済的な困難と文化的な貧困が重なった時に、より子供への負の影響が大きくなることがうかがえる。

文化的活動の状況別にみた自尊心が高い子供の割合

	文化的活動	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	54.8%	58.7%	47.4%	67.1%	48.3%
	低	35.9%	37.6%	37.3%	27.7%	32.1%
中学2年生	高	38.3%	39.7%	34.0%	38.4%	36.5%
	低	25.3%	27.9%	26.3%	15.6%	21.4%

文化的活動得点については P13 参照

【保護者の精神的な健康状態】

○経済的に厳しい世帯の保護者ほど、精神的健康状態が良くない。

精神的健康状態別にみた保護者の割合

	精神的健康状態	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	36.6%	39.8%	35.2%	29.6%	21.3%
	低	29.0%	25.4%	30.9%	39.2%	47.2%
中学2年生	高	36.4%	38.9%	36.8%	26.6%	22.2%
	低	29.8%	27.6%	30.3%	38.9%	47.3%

K6指標(精神的健康指標)

精神的健康の状態を示す指標。以下の質問と回答に基づいて指標を算出。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問:【保護者調査】あなたは過去1か月の間に、次のようなことがどれくらいありましたか。 ①ささいなことでも気になった ②絶望的だと感じた ③そわそわ、落ち着かなく感じた ④気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じた ⑤何をしても面倒だと感じた ⑥自分は価値のない人間だと感じた	①～⑥のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。 いつも:4点 たいてい:3点 ときどき:2点 少しだけ:1点 全くない:0点 ①～⑥の点数を合算した合計得点について、K6指標では5点以上で高ストレス状態を示唆するとされています。そこで、1点以下を精神的健康高、2～4点を中、5点以上を低とします。

○保護者の精神状態が良好である場合は子供の自尊感情が高い割合が高い。

小学5年生では所得段階が低いほど、自尊感情が低い傾向があるが、中学2年生では所得との顕著な相関が見られない。

保護者の精神的な健康状態別にみた自尊感情が高い子供の割合

	精神的健康状態	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	50.8%	55.4%	47.4%	41.7%	40.8%
	低	39.5%	42.2%	38.9%	34.2%	34.4%
中学2年生	高	35.1%	35.7%	33.2%	33.0%	37.7%
	低	27.6%	31.7%	22.4%	26.3%	24.6%

○経済的に厳しい世帯の保護者ほど、困ったときや悩みがあるときの相談相手や、緊急時に子供を預かったり、助けてくれる人がいない。

困ったときや悩みがあるときの相談相手がいないと回答した割合(保8)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	4.3%	3.2%	4.4%	7.1%	8.1%
中学2年生	5.1%	4.0%	5.3%	9.9%	11.6%

緊急時に子供を預かったり、助けてくれる人がいないと回答した割合(保9)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	7.9%	8.4%	6.2%	12.0%	13.3%
中学2年生	8.0%	6.7%	8.7%	11.3%	13.9%

【家族との過ごし方】

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、家族と一緒に楽しい時間を過ごしているという回答が少ない。

家族と一緒に楽しい時間を過ごしていると回答した子供の割合(子4)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	61.9%	64.4%	59.7%	58.5%	57.0%
中学2年生	59.1%	61.5%	58.3%	53.5%	55.3%

○経済的に厳しい世帯ほど、保護者が子供の頃、保護者自身の親と一緒に楽しい時間を過ごした経験が少ない。

保護者が子供の頃、「保護者自身の親と一緒に楽しい時間を過ごした」と回答した割合(保35)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	72.7%	77.1%	70.9%	65.3%	59.2%
中学2年生	67.8%	71.5%	65.3%	61.3%	54.2%

○経済的に厳しい世帯ほど、保護者が相談相手になっていることが少ない。友人が相談相手になっているかどうかについては、所得段階間で顕著な差が見られない。

普段困っていることや悩みを「親」に、「よく話す」と回答した子供の割合(子20,19A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	55.7%	58.7%	53.5%	51.3%	53.0%
中学2年生	46.7%	48.2%	45.9%	42.4%	43.1%

普段困っていることや悩みを「友だち」に、「よく話す」と回答した子供の割合(子20,19F)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	41.5%	42.6%	39.6%	41.2%	41.6%
中学2年生	48.8%	47.8%	51.1%	48.0%	47.1%

○経済的に厳しい世帯ほど、夜間や土日祝日に勤務のある保護者が多い。

母親の勤務形態のうち、平日日中以外の勤務がないと回答した割合(保36-2)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	49.6%	51.2%	50.1%	40.0%	38.8%
中学2年生	47.0%	48.9%	46.6%	42.0%	38.6%

父親の勤務形態のうち、平日日中以外の勤務がないと回答した割合(保37-2)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	19.7%	22.0%	17.1%	17.5%	12.4%
中学2年生	20.9%	24.5%	17.9%	16.2%	15.5%

【子供の支援機関従事者の視点】

●貧困状態の子供に欠如しているものとして「自己肯定感・自尊心」を挙げた支援者が多い。

- ・貧困状態にある子供はどのような項目において欠如が見られるかという質問に対する支援者の回答の割合(あてはまる選択肢全てに○)(支9)
 - 健全な生活習慣・食習慣(79.6%)、心身の健康(75.7%)、自己肯定感・自尊心(54.7%)

●貧困世帯の支援において、支援者が困難を感じることで、「保護者との信頼関係づくり」「支援を受ける事を保護者が同意すること」が困難であるとの回答が多い。

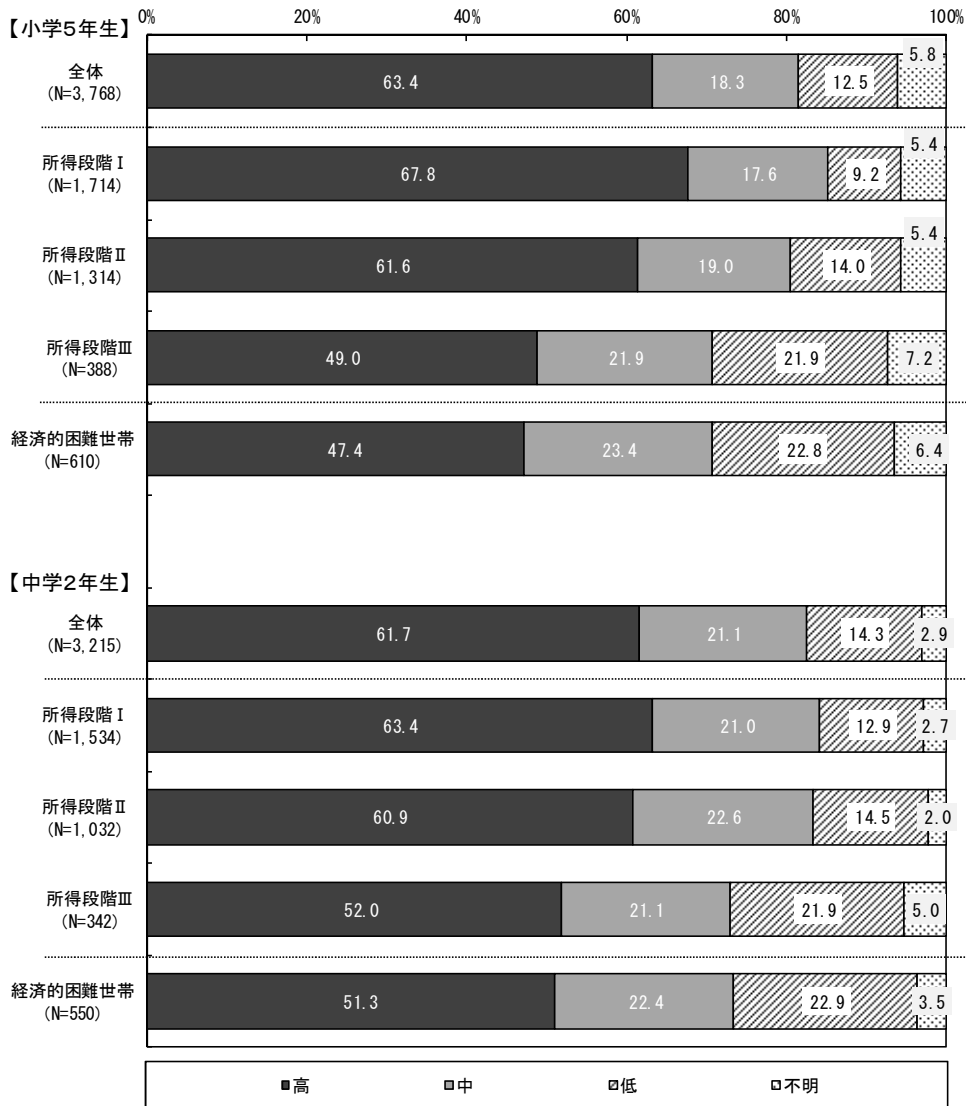
- ・貧困世帯の支援において、支援者が困難を感じることで(あてはまる選択肢3つに○)(支11)
 - 保護者との信頼関係づくり(47.6%)、支援を受けることへの保護者の同意・積極性(34.6%)、支援を行うための自分の知識・技術の乏しさ(33.6%)

(3) 子供の生活習慣

生活習慣を備えていることは、前項において学力に良い影響を与えていることがわかった。また、生活習慣は、健康を維持し社会性を備えるために重要であると考え、ここでは生活習慣について分析を深めた。

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、生活習慣が備わっていない。

【生活習慣得点別の子供の割合】



生活習慣得点(再掲)

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
①質問:あなたは、学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	・①と②については、「決まっていない」を0点、それ以外の回答を1点とする。 ・③-A(歯磨き)については、「毎日2回以上する」を2点、「毎日1回する」を1点、「する日のほうが多い」「しない日の方がほうが多い」「ほとんどしない」を0点とする。 ・③-B(入浴)については、「毎日2回以上する」「毎日1回する」を2点、「する日のほうが多い」を1点、「しない日の方がほうが多い」「ほとんどしない」を0点とする。 ・④については、「いつも食べる」を2点、「食べるほうが多い」を1点、「食べないほうが多い」「いつも食べない」を0点とする。 ①～④の点数を合算した合計得点が8点を生活習慣高、7点在中、6点以下を低とします。
②質問:あなたは、次の日に学校がある日は、だいたい何時ごろに寝ますか。	
③質問:あなたは、歯磨きや入浴(風呂、シャワー)をしますか。【A:歯磨き、B:入浴】	
④質問:あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	

【健康状態】

- 経済的に厳しい世帯ほど、子供、保護者共に「健康状態がよい」と回答する割合が低い。

子供の健康状態について、「よい」と回答した保護者の割合(保 13-2)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	75.2%	77.1%	76.5%	67.3%	64.6%
中学2年生	70.7%	73.6%	71.0%	62.2%	61.8%

保護者自身の健康状態について、「よい」と回答した保護者の割合(保 13-1)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	56.8%	59.6%	57.1%	47.7%	42.9%
中学2年生	53.1%	55.5%	54.5%	43.3%	39.9%

- 経済的に厳しい世帯ほど、普段朝食を食べないことがある子供の割合が高い。

朝ごはんをいつも食べると回答した子供の割合(子 22.21)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	90.0%	93.5%	87.4%	82.2%	81.8%
中学2年生	87.0%	88.4%	87.2%	78.4%	79.1%

- 経済的に厳しい世帯ほど、給食以外の食事の内容として、野菜を摂る頻度が低く、インスタント食品を摂る頻度が高い。

給食を除いた場合の野菜の摂取頻度において、毎日食べると回答した子供の割合(子 25A,24A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	68.2%	72.2%	65.4%	58.0%	57.0%
中学2年生	71.5%	73.9%	71.9%	61.7%	62.2%

カップめん・インスタント食品を週2～3回以上食べると回答した子供の割合(子 25D,24D)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	19.2%	16.4%	21.3%	26.5%	27.6%
中学2年生	23.0%	21.1%	23.2%	31.3%	30.7%

- 経済的に厳しい世帯ほど、医療機関で受診させた方がよいと思ったのに実際には受診させなかった経験のある割合が高い。

過去1年間に受診を控えた経験がある割合(保 15)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	8.3%	8.3%	7.6%	11.2%	13.5%
中学2年生	10.0%	9.6%	10.1%	14.0%	16.8%

受診を控えたのが経済的な理由であると回答した割合(保 15-1)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	5.1%	5.6%	3.0%	2.3%	12.0%
中学2年生	9.6%	8.8%	11.4%	10.4%	17.2%

【規則正しい生活】

- 経済的に厳しい世帯ほど、歯磨きを1日2回以上する子供の割合が低い。

歯磨きを1日2回以上すると回答した子供の割合(子 21-A、20-A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	76.9%	80.9%	74.5%	65.5%	63.4%
中学2年生	76.4%	78.7%	74.6%	67.8%	68.2%

子供に未治療の虫歯があると回答した保護者の割合(保 14)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	6.1%	5.1%	5.9%	11.5%	13.6%
中学2年生	6.5%	4.3%	8.3%	12.8%	13.6%

○携帯電話、スマートフォンの所持率は、世帯の経済状況による差が見られない。

自分が使うことができるもので、携帯電話、スマートフォンを「ある」と回答した子供の割合(子 3,3)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	40.6%	41.4%	39.4%	41.8%	42.3%
中学2年生	68.5%	69.5%	69.1%	64.3%	70.2%

○経済的に厳しい世帯の子供ほど、ゲーム機の使用、電話やメール・インターネットの利用が長時間になっている。

平日1日の下記の下記の活動時間における子供の割合(子 13,13)

ゲーム機(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)で遊ぶ時間が2時間以上

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	20.7%	17.2%	23.8%	29.1%	28.7%
中学2年生	28.4%	25.1%	30.0%	38.9%	35.8%

電話やメール、インターネットをする(携帯電話やスマートフォン、パソコンなど)時間が2時間以上

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	9.9%	8.7%	10.1%	16.3%	13.3%
中学2年生	32.0%	28.8%	33.6%	42.7%	43.8%

○小学5年生では、経済的に厳しい世帯ほど、テレビゲーム等の時間の制限をしている割合が低い。一方、中学2年生では所得段階との相関が見られない。

ゲーム機(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)で遊ぶ時間を限定していると回答した保護者の割合(保 23-A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	33.0%	34.6%	31.7%	28.1%	26.3%
中学2年生	19.4%	19.9%	17.0%	20.3%	17.8%

【子供の支援機関従事者の視点】

●貧困状態のとらえ方として、十分食事をとれていない、住環境が劣悪、成長や季節に応じた服装をしていないという回答割合が高い。

・どのような状況にある子供を「貧困状態にある」と考えるかという質問に対する支援者の回答の割合(あてはまる選択肢全てに○)(支 7)

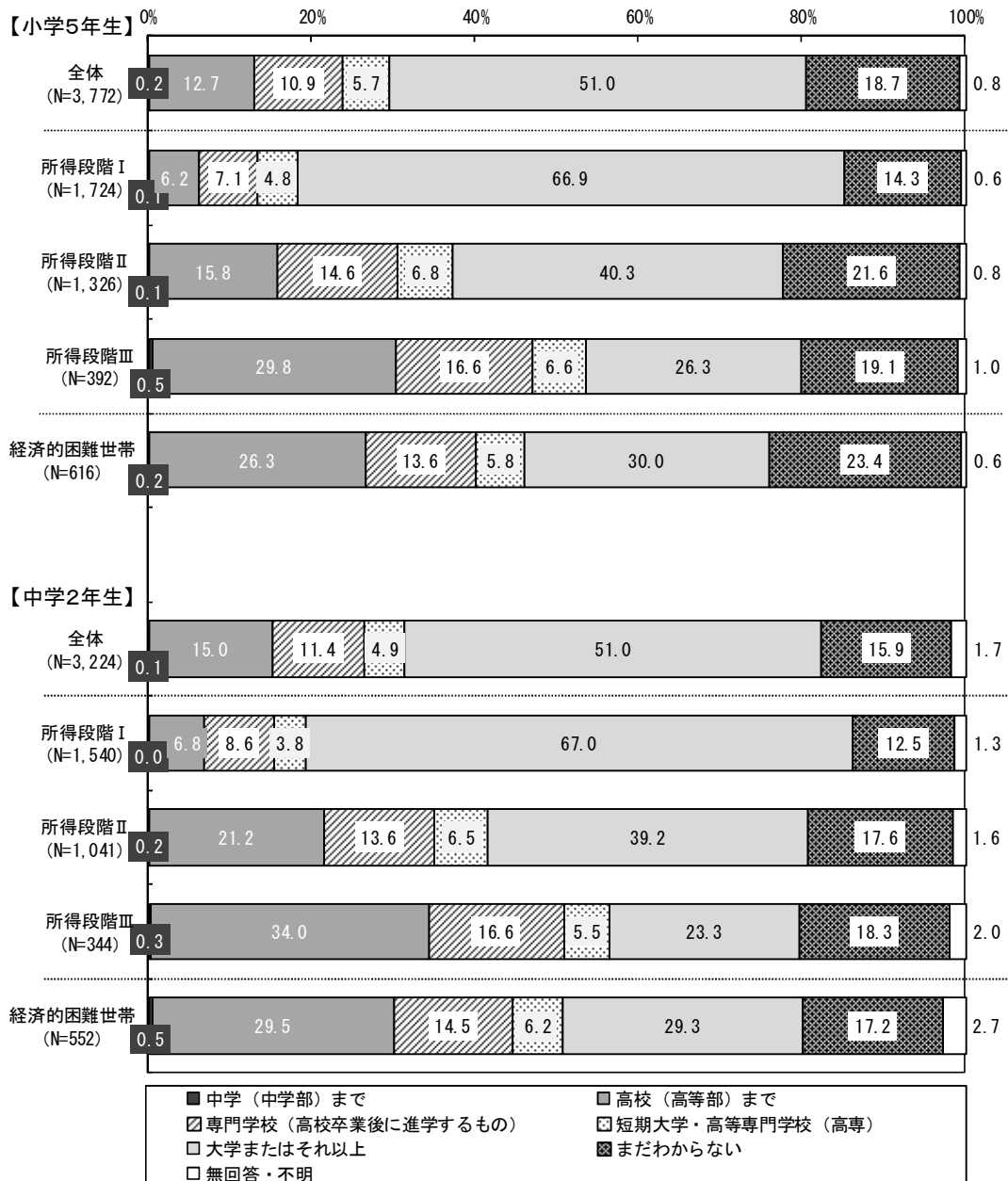
➤十分に食事をとれていない(88.2%)、住環境が劣悪である(79.6%)、成長や季節に応じた服装をしていない(73.8%)

(4) 保護者の状況

ここでは、貧困の世代間連鎖に着目し、保護者の経済状況や生活環境、価値観が子供にどのように伝達されているかについてまとめた。

○経済的に厳しい世帯ほど、子供に大学・大学院への進学を望む割合が低い。

【保護者が子供に望む最終学歴の割合】(保12)



【保護者の最終学歴】

- 経済的に厳しい世帯ほど、大学・大学院に進学した保護者の割合が低い。

母親：最後に通った学校が大学・大学院の割合（保 38）

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	20.2%	27.8%	14.1%	10.2%	10.1%
中学2年生	15.8%	22.6%	10.0%	5.3%	5.3%

父親：最後に通った学校が大学・大学院の割合（保 39）

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	34.9%	47.7%	27.3%	9.9%	17.5%
中学2年生	33.0%	45.5%	22.6%	12.8%	15.4%

- 保護者の最終学歴は、保護者が子供に望む最終学歴に強く関連している。

大学・大学院に進学した保護者は、約8割が子供にも大学・大学院への進学を希望している。

保護者の学歴別にみた子供に望む最終学歴が大学・大学院の割合

	全体	中学・高校	専門学校	短大・高専	大学・大学院
小学5年生	50.7%	32.6%	45.4%	58.3%	79.7%
中学2年生	50.9%	31.1%	48.0%	65.7%	83.8%

【保護者の就労状況】

- 母親の就労状況について、所得段階Ⅰでは正規雇用が比較的多いが、所得段階Ⅲでは非正規雇用が多い。専業主婦は所得段階が低いほど少ない。

母親の就労状況（保 36）

小学5年生

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	20.7%	29.7%	14.1%	10.8%	15.6%
非正規雇用	46.6%	40.2%	54.0%	56.9%	55.4%
専業主婦	18.2%	19.4%	17.9%	11.0%	11.5%

中学2年生

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	21.0%	27.8%	16.2%	12.8%	16.3%
非正規雇用	49.1%	45.2%	54.6%	57.0%	58.7%
専業主婦	15.1%	16.6%	14.4%	9.0%	8.9%

- 母親の就労状況を、ひとり親世帯に限定してみると、母親全体と比較して正規雇用の割合が多くなっているが、経済的に厳しい世帯ほど非正規雇用が多くなっている。

ひとり親（母親）の就労状況（保 36）

小学5年生

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	34.4%	58.6%	46.2%	17.4%	23.3%
非正規雇用	46.2%	17.2%	39.2%	64.2%	58.1%

中学2年生

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	33.9%	52.7%	45.7%	17.7%	21.7%
非正規雇用	43.1%	16.3%	32.5%	64.8%	58.8%

- 父親の就労状況について、経済的に厳しい世帯ほど正規雇用が少ない。

父親の就労状況（保 37）

小学5年生

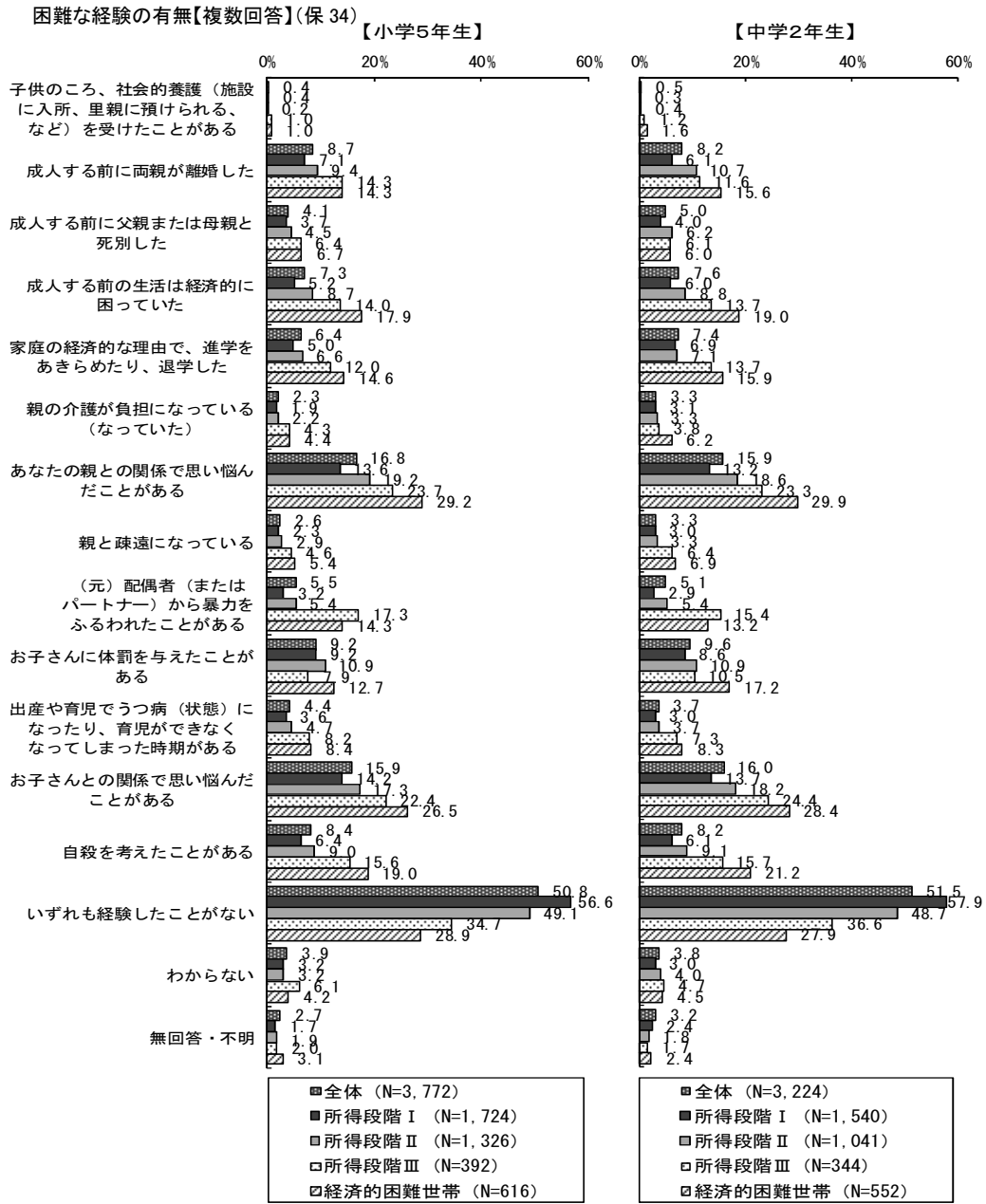
	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	67.0%	82.4%	63.8%	25.3%	48.9%
非正規雇用	3.2%	0.9%	4.3%	10.4%	9.3%

中学2年生

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	65.8%	81.3%	61.9%	22.5%	48.1%
非正規雇用	3.1%	1.8%	4.0%	6.7%	6.2%

【保護者が経験したこと】

○経済的に厳しい世帯ほど、困難な経験をしていることが多い。



【支援制度とのつながり】

○経済的に厳しい世帯ほど、子供食堂等の支援策や県・市町村の相談窓口に係る認知度が低い。

子供食堂を「知らない」と回答した保護者の割合(保 41A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	31.7%	26.9%	35.4%	42.1%	38.3%
中学2年生	30.4%	26.8%	32.9%	39.2%	35.7%

県・市町村の相談窓口を「知らない」と回答した保護者の割合(保 43A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	20.1%	18.0%	21.6%	25.0%	24.0%
中学2年生	18.6%	16.7%	20.4%	24.7%	25.0%

IV. まとめ

(1) 子供の教育環境

学校の授業以外に塾等で学習している場合、子供が大学・大学院等の高等教育段階まで進学を希望している場合、保護者による子供への教育姿勢が高い場合、朝食摂取や歯磨き等基本的な生活習慣を備えている場合、図書館に行く等の文化的な活動が活発な場合、自尊感情が高い場合、授業がいつもわかると回答した子供の割合が高くなっている。

【学校の授業以外の学習】

- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、塾や習いごとをしている割合が低く、家庭における学習習慣が定着していない。
 - 学校での補充学習を充実させることで、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。
 - 子どもの居場所づくり（無料の学習塾）の箇所数の増加を図り、地域における学習支援を強化する。

【子供の進学希望】

- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、世帯の経済状況により進学をあきらめたり、進学イメージを持つことができていない。
 - 就学援助制度や奨学金、貸付金等による経済的支援によって学習機会の確保・充実を図るとともに、子供に対し将来への希望を持つことができるよう啓発する。

【保護者の教育姿勢】

- 「子供の良いところをほめる」、「悪いことをしたら叱る」、「本や新聞を読むようにすすめる」等保護者の教育姿勢が高いことが、子供の学力に良い影響を与えている。
 - 保護者の教育姿勢を高めるために、保護者を対象にした学習会や訪問型家庭教育支援の充実を図る。

【生活習慣】

- 朝ご飯を食べる、歯磨きをする等生活習慣を備えていることが、子供の学力に良い影響を与えている。
 - (3) 子供の生活習慣に後述

【文化的な活動】

- 図書館や博物館に行く、新聞やニュース等について話す等の文化的活動を多く経験することが、子供の学力に良い影響を与えている。
- 経済的に厳しい世帯では、経済的な負担を伴わない活動（図書館に行く、新聞やニュース等について話す、本の読み聞かせをする等）についても差がある。これは、保護者の価値観や

時間的・心理的な余裕のなさが影響していると考えられる。

- 放課後子供教室（無料の体験教室）の拡充を図るとともに、学校と文化的活動を提供できる施設が連携し子供たちが主体的に取り組む体験学習の充実を図る。

【自尊感情】

- 「自分にはいいところがある」、「がんばればいいことがある」等の自尊感情を子供が備えていることは、学力に良い影響を与えている。
- （２）子供の社会性に後述

（２）子供の社会性

家族以外の子供と積極的に関わっている場合、文化的活動を多く経験している場合、保護者の精神的健康状態が良好な場合、自尊感情が高い子供の割合が高くなっている。

【家族以外の大人とのつながり】

- 経済的に厳しい世帯ほど子供の自尊感情が低い傾向であるが、家族以外の大人と関わりを持つことで、子供の自尊感情が高まる傾向があることがわかった。
- 子どもの居場所づくり、放課後子供教室、放課後児童クラブ等、家庭以外での子供の過ごす場を更に充実させ、多様な大人と関わる場の提供を図る。

【保護者の精神的な健康状態】

- 家庭の厳しい経済状況は、保護者の精神的な安定、子供の精神的な安定、子供の自尊感情に悪影響を与えている。
- 経済的に厳しい世帯ほど、支援を受けるための近隣住民や友人とのつながり等の人間関係が不足している保護者が多い。
- 相談支援体制を充実し、保護者に寄り添ったサポートや各種公的支援に結び付けることにより、保護者の負担軽減を図り、保護者の子供への関わりを深めさせるよう取り組む。

【家族との過ごし方】

- 経済的に厳しい世帯の家族関係は、子供にとって楽しい側面より厳しい側面が強く、保護者自身の親との関係についても同様の傾向がある。保護者が生まれ育ってきた家庭での経験が、現在の家族関係に反映されていると考えられる。
- 経済的に厳しい世帯ほど、放課後や休日に保護者が家庭にいる時間が短く、子供と関わる時間が十分に確保しづらい状況である。
- 何らかの悩みを持つ子供は経済的に厳しい世帯の方が多くなっていると同時に、保護者が相談相手になっていることが少ない傾向が見られる。

- 保護者が子供と関わる時間を確保できるよう、企業や地域社会等の理解・協力を得ながら、子育て支援等の取組を進めていく。
- 保育、教育、保健、子育て支援等の関係機関が連携し、支援が必要な世帯に気づき、支援につなげ、見守る体制づくりに努める。

(3) 子供の生活習慣

【規則正しい生活・健康状態】

- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、歯みがきを怠る、朝食の欠食等基本的な生活習慣、食習慣が確立できていない。
- 経済的に厳しい世帯では、医療機関で受診させた方がよいと思ったのに実際には受診させなかった経験のある割合が高く、受診を控えたのは経済的な理由であると回答した世帯が一定数存在している。
- ゲーム機、携帯電話・スマートフォンは、経済状況による所持率の差があまりなく、経済的に厳しい世帯においても保護者が子供に買い与えている。
- 経済的に厳しい世帯においてゲーム、スマートフォンの利用が長時間となっていることについては、習いごと等をしていないため、それらに向かいやすいという面と、家庭で適切な時間管理がされておらず、放課後や休日等の過ごし方が確立できていないことが考えられる。
 - 学校、家庭、地域で「早ね・早おき・朝ごはん」運動を推進し、子供の生活習慣、食生活の確立に努める。
 - 保護者の教育姿勢を高めるために、保護者を対象にした学習会や訪問型家庭教育支援の充実を図る。(再掲)
 - 保育、教育、保健、子育て支援等の関係機関が連携し、支援が必要な世帯に気づき、支援につなげ、見守る体制づくりに努める。(再掲)
 - 子どもの居場所づくり、放課後子供教室、放課後児童クラブ等、家庭以外での子供の過ごす場を更に充実させ、多様な大人と関わる場の提供を図る。(再掲)

(4) 保護者の状況

- 経済的に厳しい世帯ほど、就労形態が非正規雇用であることが多く、収入が乏しかったり不安定となっている。
- ひとり親世帯、特に母子世帯では経済的に厳しい世帯の割合が高くなっている。
- 経済的に厳しい世帯では、大学・大学院を卒業している保護者の割合が低く、十分な教育を受けられなかったことが現在の就労状況に繋がっていることが考えられる。

- 経済的に厳しい世帯では、保護者自身が成人する前の経済的な困窮を経験していたり、家族関係のトラブルを経験していることが多い。育ってきた環境の厳しさが現在の経済状況に繋がっている側面が見受けられる。
- 経済的に厳しい世帯ほど、支援制度や相談窓口の認知度が低い。そのため、本来支援の対象とされるべき世帯が支援の対象から漏れている可能性が危惧される。
 - ひとり親家庭に対し就職に有利な資格取得支援の充実を図る。
 - 生活困窮者自立支援事業相談員、母子・父子自立支援員等の資質向上を図る等きめ細やかな相談体制を整備する。
 - 各種手当や給付金、貸付金等の現行制度の利用促進など経済的支援の充実、強化を図る。
 - 保育、教育、保健、子育て支援等の関係機関が連携し、支援が必要な世帯に気づき、支援につなげ、見守る体制づくりに努める。(再掲)

(5) 今後の取組

実態調査により、「子供の貧困」が単なる経済的困窮にとどまらず、子供が当たり前に持っているはずの「物」「人とのつながり」「教育・経験の機会」等が奪われているという一般的な説が裏付けられ、子供の学力や自尊感情、健康など様々なものにマイナスの影響を与えている状況が明らかになった。

「子供の貧困」は決して子供だけの問題ではなく、「世帯の貧困」でもあり、子供の貧困の改善のためにはまず保護者が自立し、安定した生活を営めるよう、保護者に対する就労支援や経済的支援、生活支援を充実させることが必要である。

また、貧困の世代間連鎖を断ち切るためには、将来の所得を決める大きな要素である「子供の学力」を高めることも重要である。経済状況にかかわらず、学ぶ意欲と能力のある全ての子供が質の高い教育を受けることができるよう、学校を子供の貧困対策のプラットフォームと位置づけ、学力を保証するとともに、「子どもの居場所づくり」等地域における学習支援の拡充を進めていく必要がある。

なお、調査結果から、保護者の教育姿勢を高めること、子供の自尊感情を高めること、規則正しい生活習慣を身につけること、文化的活動を豊富に経験することが、子供の学力向上に良い影響を与えていることが明らかになった。よって、これらの要素を高めるため、家庭教育の推進、文化的活動や体験機会の確保、家族以外の大人と関わる場の確保等により一層取り組んでいく。

実態調査結果については、庁内9部局23課室で構成される子供の貧困対策庁内検討会で情報共有し、必要に応じ新政策の検討や、県計画に基づき実施している既存72事業の見直しをすすめる等、市町村とも連携しながら引き続き全庁体制で取り組んでいく。

和歌山県子供の生活実態調査結果報告書 概要版

平成 31 年 3 月

和歌山県 福祉保健部 福祉保健政策局 子ども未来課

〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目 1 番地

TEL：073-441-2493 FAX：073-441-2491

メール：e0402001@pref.wakayama.lg.jp